

## ★ 操 作 方 法 ★

マンガのページの上でクリックすると次のページを表示します。右クリックすると前のページに戻ります。

※ Macintosh で、マウスに右クリックの設定をしていない方は、キーボードの「control」キーを押しながらマウスをクリックすると前のページに戻ります。

※ iPad では、上下スクロールでご覧いただけます。

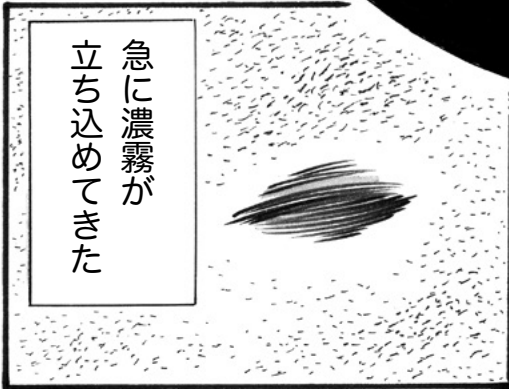


西暦2050年

年々地球の汚染レベルの  
数値が高くなって  
きていた

私は自然保護監視員  
通称「フリーダム」の一員として  
この日もパトロールを強化  
していた――

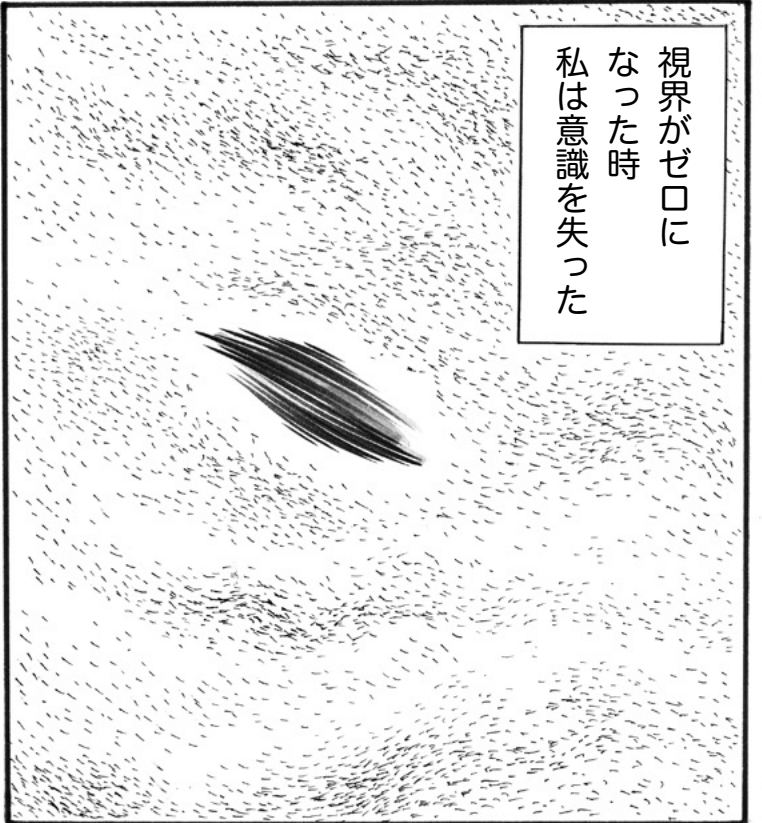




急に濃霧が  
立ち込めてきた



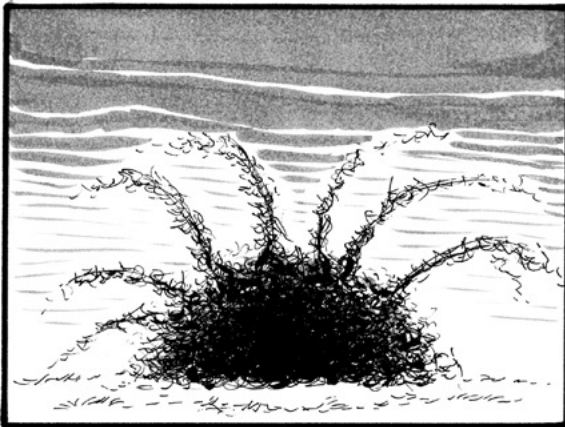
どのくらい  
意識を失って  
いたのだろうか



視界がゼロに  
なった時  
私は意識を失った



気が付くと  
見たことが無い  
場所にいた



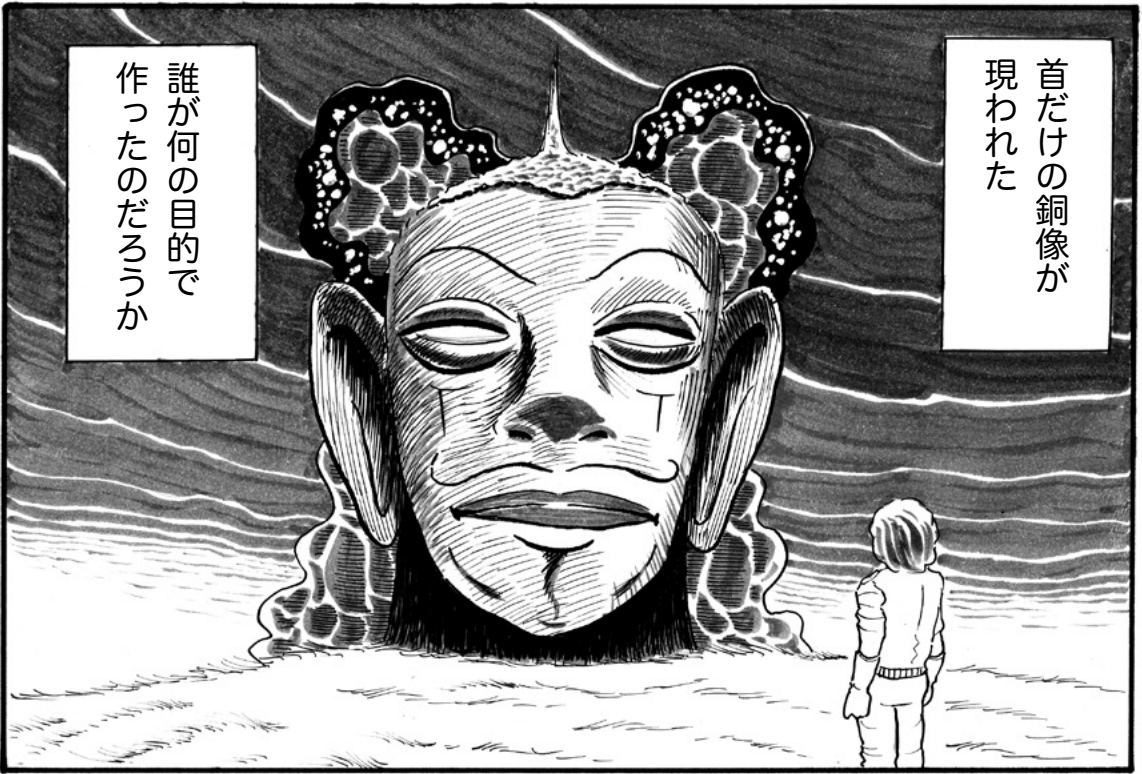
一体ここは  
どこなんだ？



少し歩くと



地球で無い  
ことだけは  
確かだった



首だけの銅像が  
現われた

誰が何の目的で  
作ったのだろうか

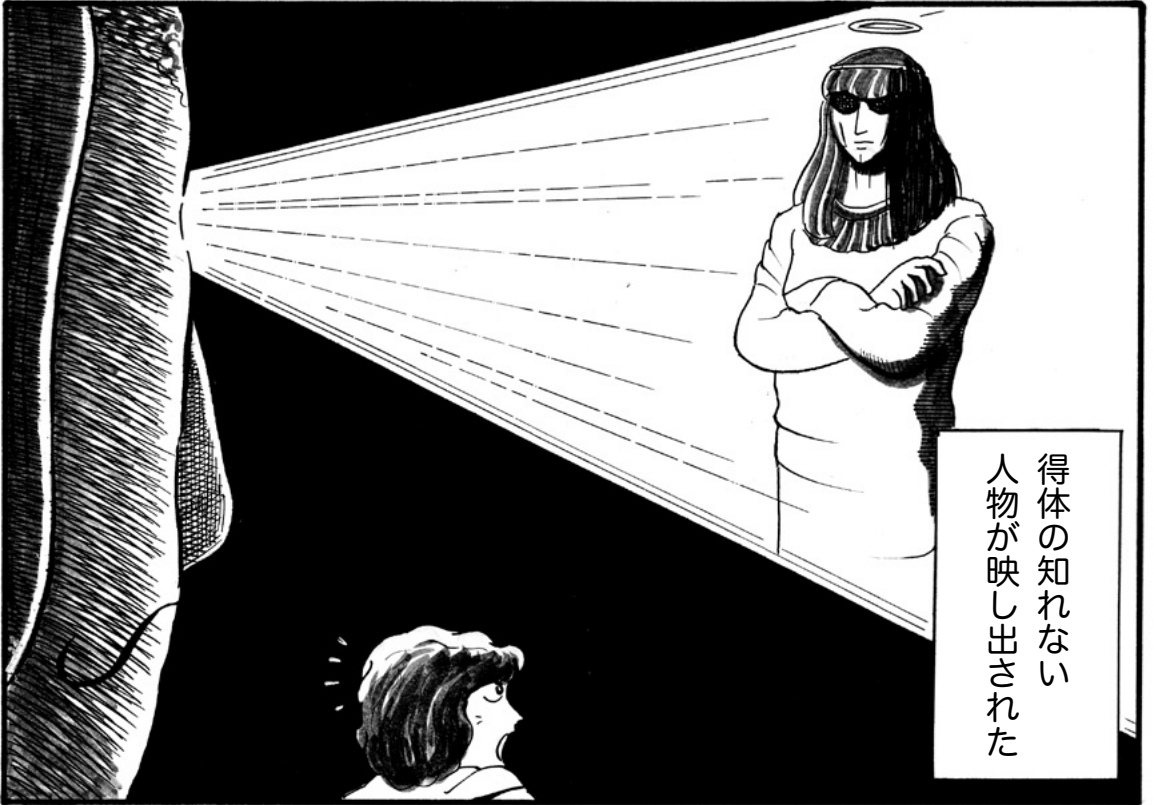
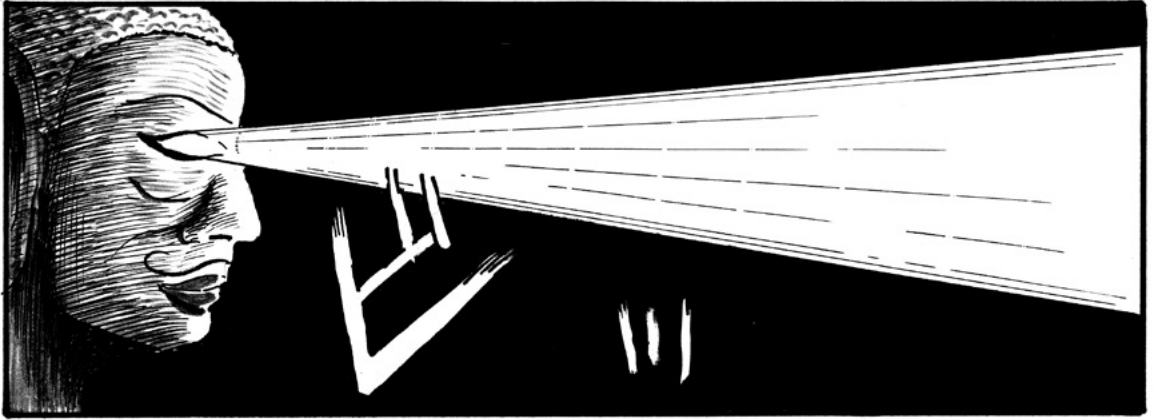


首も動いた



突然目が  
開いた



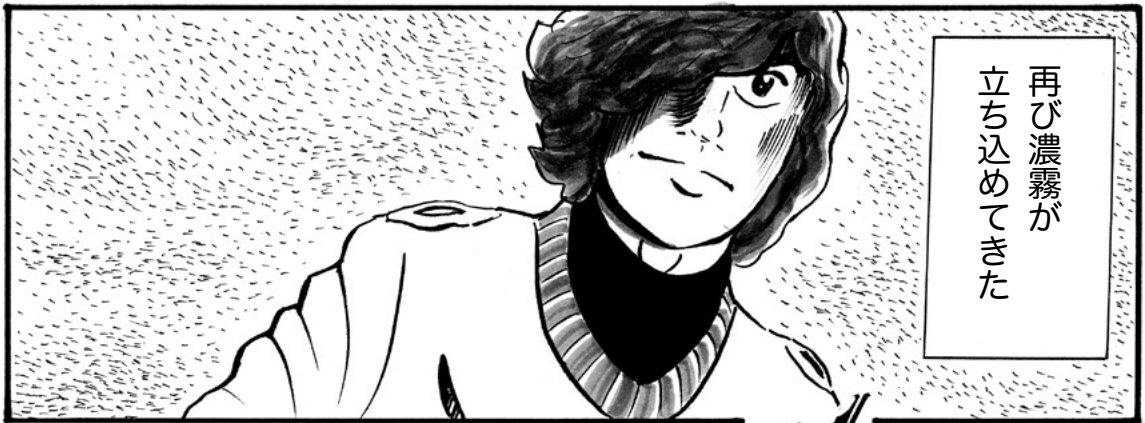




仏像も目を閉じ  
動かなくなつた



映像が消えた



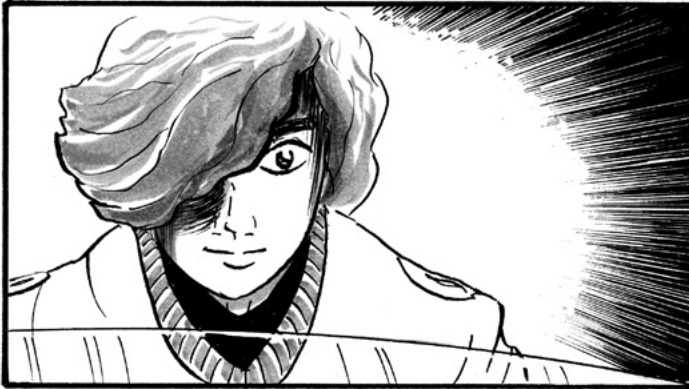
再び濃霧が  
立ち込めてきた



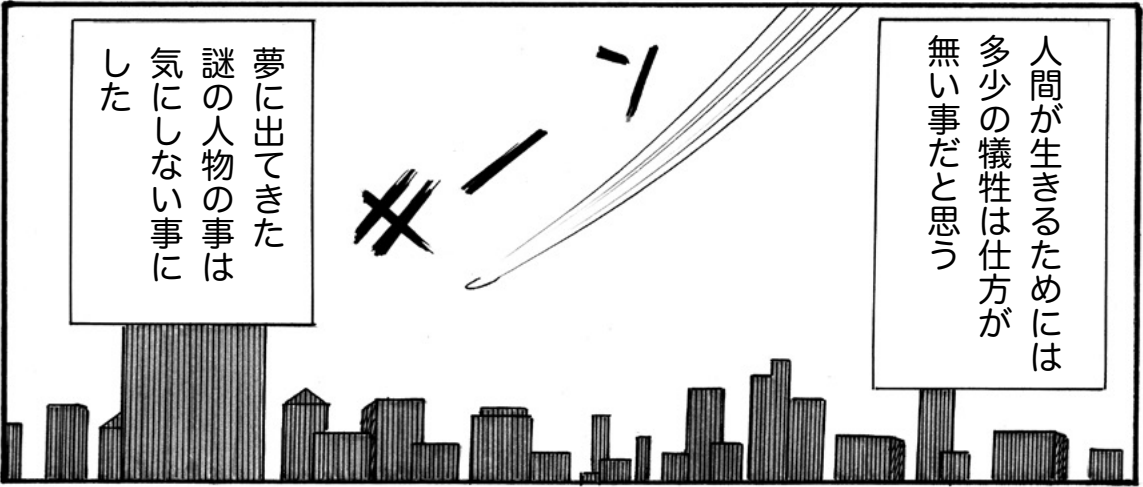
一瞬夢を  
見ていたの  
だろうか



すると  
パトロール中に  
戻っていた



きっとそうだ  
私は疲れから  
あんな変な夢を  
見たに違いない



人間が生きるためには  
多少の犠牲は仕方が  
無い事だと思っ

夢に出てきた  
謎の人物の事は  
気にしない事に  
した



愚かなる人間達よ  
この美しい地球は  
おまえ達だけのものでは無い  
そろそろおまえ達に代わる  
新しい生物を考えなければ  
ならないようだな

こうして  
人類滅亡への  
カウントダウンが  
始まったのである

カチ  
カチ  
カチ  
カチ  
カチ  
カチ  
カチ  
カチ  
カチ  
カチ

THE END